



わたしの祭語りepi.1

白沢賢二

第45回実行委員長

おまんた祭りとは…

帰省者の交流の場である



お祭り期間中はどのような活動をされていますか？



全体の進行状況の把握や必要に応じて事務局と相談しながら各企画の調整などを行っておりました。

通常のお祭りが開催された場合などは各企業様に協賛金のお願いにも足を運ぶなど事務局を縁の下からも支えます。

(第45回はコロナ禍ということで大幅に祭りの規模が縮小されました)

緑町区長を20年間務めていた頃は、お祭りへの参加者の把握と市民流しの踊り手の確保に力を注いでいました。

能生地域の皆さんにもぜひお祭りに参加してもらいたいと思い、平地区や上南地区の皆さんにも声がけをし、市民流しへの参加を実現させました。踊っている時の皆さんの笑顔が忘れられません。



過去のおまんた祭りの思い出を教えてください。



おまんた祭り誕生当時から3～4年間「富箱みこし」の責任者として自宅を事務局として開放していました。

みこしの作成や市内巡行、賞品の準備などに追われていました。その後は当時協力してくれた20数名たちと毎年交流会を実施しておりお祭りを通してできた仲間は今でも大切な存在です。

お祭り自体もかつては大人も子供も多く、祭り＝賑わいが常であった。お祭りの時期に帰省する人達も多く、帰省者の交流の場でもあり、まさに「糸魚川の夏」には欠かせないお祭りだということを実感しております。



未来のおまんた祭りへメッセージをお願いします。



お祭りを未来につないでいくためには2点必要なことがあると
考えます。

「①少子高齢化に即した祭りの内容の改善」

「②おまんた囃子の踊りの継承」

子供が少なくなる中で日中のイベント出演や夜の市民流しへの
参加と子供たちに頼ったお祭りの中身ではこの先続けていくことが
厳しくなると思います。

おまんた囃子の正式な踊り方の継承も心配しています。
そのためにも小、中、高の授業の中で指導が出来たらという思いが
あり事務局と実現に向けて話し合いを続けております。

白沢実行委員長

素敵な祭語りありがとうございました。

【語りを聞いて…】

かつては私もおまんた祭りに合わせて帰省していました。
市外へ出て働く人、糸魚川に残り仕事をする人
一年に一度、皆で集い語らう時間を楽しみにしている方も
多いのではないのでしょうか。
まさにおまんた祭りは旧友との交流・再会の場でもありますね。

何処にいたとて 祭りの日には 帰らさしやされヨ

故郷の父母 あの祖父祖母も

指を折りつつ 待つ程に…

おまんた囃子より